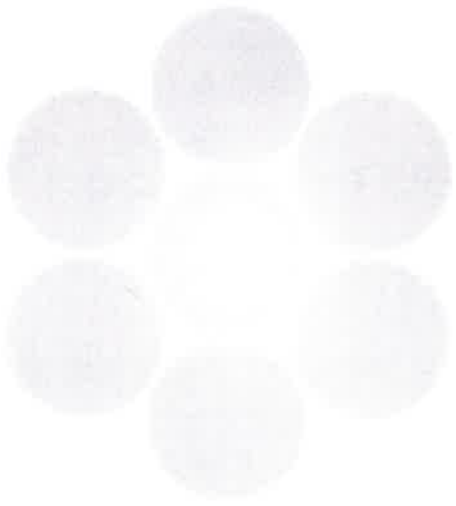


九鬼家御家騒動



## 九鬼家御家騒動

九鬼家の御家騒動は、大名九鬼家で起きた家督相続から端を発し、主君と家中とが対立した騒動です。水軍の長であった九鬼嘉隆の2代目九鬼守隆の家督後継者をめぐり、5男(末子)久隆に家督を譲りたいとする主君守隆と3男隆季こそが次期当主にふさわしいとする親族集団と重臣とが対立します。そこに家老・組頭たち40~50人が、隆季を長に選択し、九鬼家を退去する騒動に発展したのです。

主君守隆は「子は親次第」と家督を誰に譲るかは親に決定権があるとし、九鬼水軍を維持するには家中の協力なしでは成り立たないという強い自負を持つ家臣団との対立でした。

九鬼家騒動の注目点は主君・家中・親族・公議(幕府)の動向やそれぞれの主義主張が、当時の史料から解明でき、明確にできるところにあります。また、家督相続は家の問題ですから、主人の意向のみならず、妻や娘たちの考えも大きな比重をもち、九鬼家騒動もまた守隆の嫡子長女宗信院の発言が大きく影響したのです。

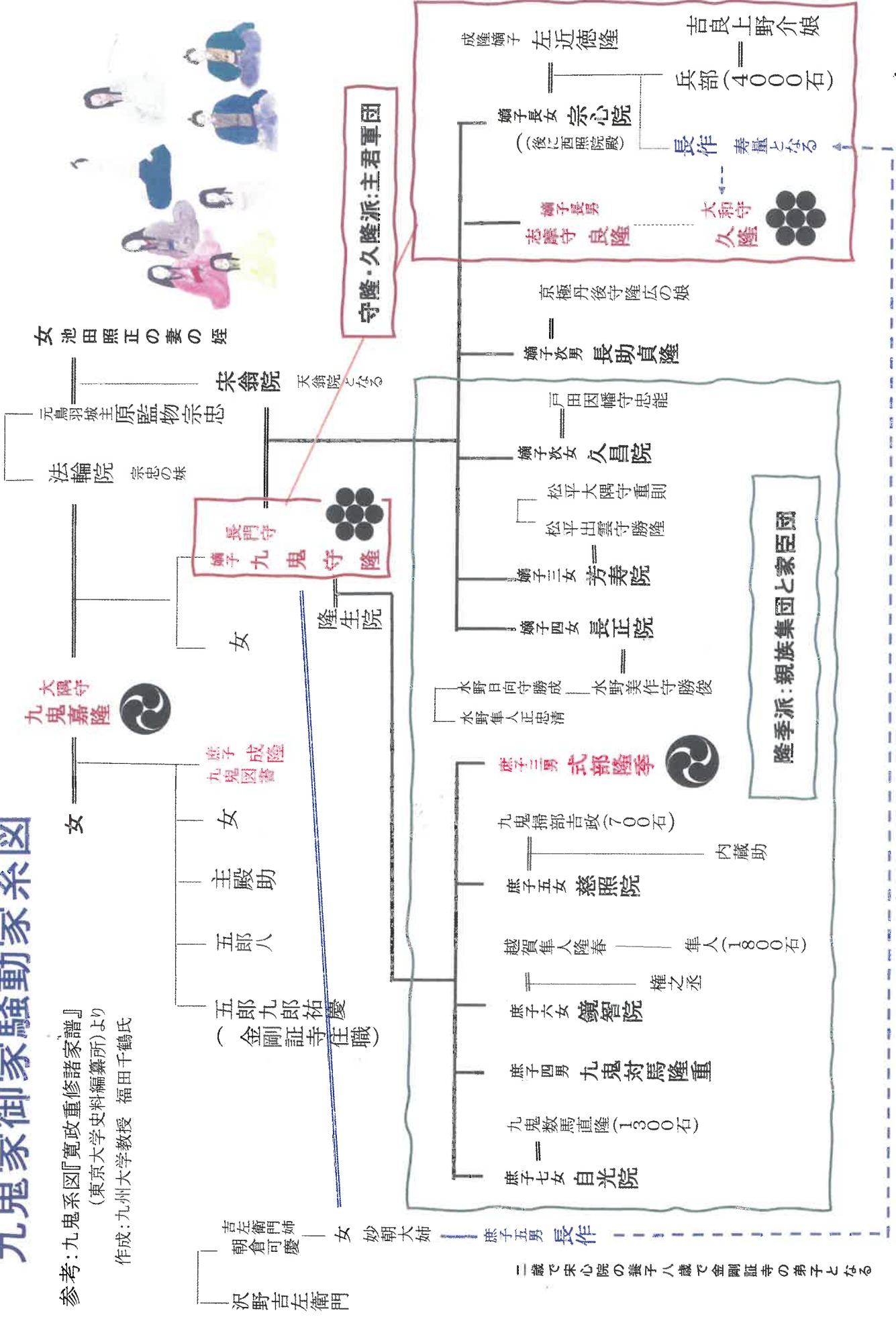
出典 参考資料  
九州大学教授 福田千鶴著『九鬼家の御家騒動』  
『三重県史』資料編(近世1)

# 九鬼家御家騷動家系図

参考: 九鬼家系図『寛政重修諸家譜』

(東京大学史料編纂所)より

作成: 九州大学教授 福田千鶴氏



### 九鬼長門守守隆

天正元年(1573)鳥羽生まれ  
 慶長2年(1597)父嘉隆の家督を継ぐ。3万石  
 5千石は父・嘉隆養老料(隠居額)  
 元鳥羽城主・原監物宗忠の娘と結婚(宋翁院)  
 関ヶ原合戦で東軍につき、2万石を加増される。慶長14年  
 9月、西國譜大名500石積以上の船を接収。寛永9年(1632)9月  
 15日没(50) 心月善光松嶽院。鳥羽常安寺に葬られるが、  
 久隆によって摂津三田心月院に改葬される

### 長女宗心院

母は宗翁院。名はお亀。  
 九鬼左近徳隆(嘉隆の孫、  
 守隆の甥)の妻。  
 兵部(4000石)の母。  
 兵部と共に幼年に養子にした久隆に家  
 督をつかさよと守隆を説得する。  
 寛永10年9月4日没。  
 西照院殿心憲宗心大師。墓は三田市  
 正覚寺にある。



### 正室 宋翁院 (天翁院)

元鳥羽城主原監物宗忠の妹  
 (豊原、橘ともいう)  
 母は池田輝政の妻(中川清季の娘の姪)  
 寛永8年10月13日没、2男4女を生む



守隆・三田心月院



天翁院・三田心月院



**長男九鬼志摩守良隆** 母は宋翁院  
 慶長10年(1605)鳥羽で誕生。慶長  
 17年駿府で家康に、江戸で秀忠に拝  
 謁。良隆8歳の時元和6年(1620)従五位  
 志摩守に叙任。寛永9年(1632)病者に  
 より、嫡子を辞す。寛永11年3月5日 摂  
 津三田において没(30歳)



良隆・三田心月院  
歴代藩主墓地



貞隆・三田心月院  
隆義・奥方墓所

**次男九鬼長助貞隆** 母は宋翁院  
 慶長13年(1608)生まれ。慶長17年、守  
 隆・良隆と共に、駿府で家康に拝謁(5  
 歳)。妻は京極権後守高広(丹後宮津)  
 の娘「お姫美しくりはつ(利発)」  
 寛永8年11月26日江戸にて疝瘡に罹り  
 没(24歳)。

### 四女長生院

母は宋翁院  
 水野美作守勝俊(のち備後福山10  
 万石)の妻。勝俊の伯父・水野準人  
 正忠清(三河吉田4万石)、他に久  
 松平豊前守勝敷(水野忠分5男)  
 関与一隆季支持

### 三女芳壽院

母は宋翁院  
 松平出雲守勝隆(6500石旗本)のち  
 加増され上総佐貫15000石)の妻  
 一隆季を鼻祖。松平大隅守重則(上総  
 百首1万石、勝隆の同母兄)も関与

### 次女久昌院

母は宋翁院  
 戸田幡守忠能(三河田原  
 1万石、1586~1647)の妻  
 慶安4年(1651)2月24日没  
 (「九鬼系図」) → 隆季支持

### 四男 九鬼対馬隆重

母は隆生院

慶長20年(1615)生まれ  
寛文元年(1661)3月28日、兄式部より500石の分知、旗本として家を興す。同年5月15日4代將軍 拝謁。同3午書院番、延宝7年(1679)10月6日没(65) 江戸浅草心月院に葬られる

### 五男 九鬼大和守久隆



元和4年(1618)鳥羽生まれ。母は妙朝大姉(おくりな)守隆長女宗心院の養子となり、8歳で金剛証寺の弟子、壽量。

ところが、寛永9年(1632)1月26日下山、28日元服、15歳。寛永9年8月27日に總領として將軍家光に拝謁し、隆重は次男として拝謁した。寛永10年3月5日攝津三田3万6000石  
寛永20年12月29日從五位下大和守叙任  
慶安2年(1649)正月20日没(32)  
攝津三田の心月院に葬られる



三田心月院久隆墓所

### 三男 九鬼式部隆季

母は隆生院

慶長13年(1608)鳥羽生まれ。長男良隆が病弱、次男貞隆が痲瘡でなくなり、久隆を跡目とする父守隆と不和となる。25歳の寛永9年(1632)8月27日次男として家光に初目見え。同10年3月5日父の遺領2万石の分知を得て、丹波綾部に移される。同19年12月30日從五位下式部少輔に叙せられる。

延宝6年(1678)5月30日没(71)。大極院殿空山了本大居士。

鳥羽の常安寺に葬られる。

常安寺の九鬼家墓所→

### 側室 妙朝大姉

沢野言左衛門の姉、朝倉可慶の娘と伝わる。隆季の母が召し使っていた奥女中のひとりで身分が低いとされた。



妙朝大姉

五男久隆

### 側室 隆生院

勢州佐奈の多岐國司に仕え、没落後、鳥羽城に來たりて天翁院に仕えた西山民部の娘である。寛永20年(1643)12月20日卒。2男3女を生む。



四男隆重



三男隆季



隆生院



七女自光院

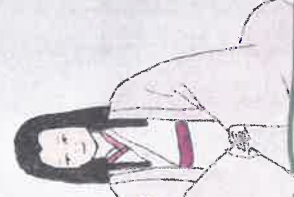


### 七女自光院

母は隆生院

九鬼数馬直隆(守隆の重臣家老、1300石)の妻 没年不詳

六女鏡智院



### 六女鏡智院

母は隆生院

越賀隼人隆春(守隆の重臣、1800石)の妻。延宝3年(1675)8月8日没

五女慈照院



### 五女慈照院

母は隆生院

寛文9年(1669)4月17日没  
九鬼掃部吉政(守隆取立、700石)の妻。九鬼内藏助の母

# 九鬼家御家騒動 序章

後の三田藩主・九鬼久隆は元和4年(1618)鳥羽生まれる。母は妙朝大姉。沢野吉左衛門の姉、朝倉可慶の娘で「式部少母(隆生院)召候もの」すなわち隆季の母が召し使っていた奥女中のひとりで身分が低いとされた。そのため、長作(久隆)は、2歳の時、守隆の長女宗心院の養子となり、8歳で金剛証寺の弟子になる。寿量と名乗る。金剛証寺の住職は九鬼嘉隆の末子五郎九郎祐慶で、その縁で寛永4年(1627)に住寺職を継いだ。



寛永8年(1631)11月26日、守隆次男の貞隆が疱瘡(ほうそう)のため急死する。守隆の嫡子長男良隆が病弱なため、次男貞隆を実際の跡取りと考え、京極家との縁組も済ませた矢先のことである。しかも同年10月13日に本妻である宋翁院を亡くしたばかりの事だった。

守隆の嘆きはいかばかりか。身の回りの世話に、母宗翁院の代わりに長女宗心院が江戸藩邸(数寄屋橋)を取り仕切ることになる。



# 九鬼家御家騒動その1

## 騒動のはじまり

跡取りと考えていた貞隆がなくなり、守隆の長女宗心院と息子の兵部は、久隆を跡取りにするように画策をはじめます。翌年寛永9年(1632)1月26日寿量を下山させ、還俗して久隆と名を改め、28日元服する。久隆15歳の時であった。



次男の貞隆が急死した折、守隆は3男隆季に「其方(隆季)の他に、世継ぎの子はいないので、今は時期が悪いから帰国して待て」と鳥羽に戻す。そこで、家中一同は隆季支持を表明し、隆季を跡取りとして、家老・組頭が起請文を、12月に幕府に提出する。

ところで、嫡子長女の宗心院以外、姉妹の嫡出女子がいずれも大名・旗本に嫁いでいる。宗心院は家臣に嫁いだのだ。家臣ではあるが、夫の左近徳隆は九鬼嘉隆の長男成隆の嫡子である。長男成隆は庶子のため、嘉隆の跡を継がず、次男嫡子守隆が継いだ。成隆は別に家を興して家臣に下ったいきさつで、跡を継いだ守隆は嘉隆の長男なので、成隆に対し破格の扱い(九鬼家35000石のうち、4500石)を行ったのである。

また、武家社会では男女を隔てず、最初に生まれた子どもは大変重んじられ、守隆が妻を亡くし、家督継承者の決定に長女宗心院の発言が重要なカギを握っていたと考えられる。

嫡子(ちやくし) 父と本妻の間にできた子ども

庶子(しよし) 父と側女の間でできた子ども

## 九鬼家御家騒動その2 親族集団から異見

九鬼兵部は守隆に久隆を跡目にすることを進言、守隆は江戸での親族会議で提案する

これに驚いた水野忠清(四女長正院の夫の叔父)が隆季に「急いで参府するよう」書状を送った。隆季は江戸に参府、戸田忠能(次女久昌院の夫)の屋敷にとどまる。

水野忠清は隆季への書状に「長門守(守隆)は御内儀様、長介殿に死に別れたためか昔のような気の持ちようではない。御親父様のことながら「御気遣」ではないか」と守隆を狂人扱いする文を書き送っている



寛政9年正月末の親族会議において、守隆は隆季の勝手な行動は父に対し存分(反対意見)があるからに相違ない、今後は隆季と不仲(仲違い)するよう」と宣言、家中には隆季と交流を断つことを命じる。また、守隆は親族集団が申し合わせ違反したと糾弾する。

隆季派親族集団(宋翁院の娘女縁による親族集団)

嫡子次女 久昌院は三河田原1万石戸田因幡守忠能(1586~1647)に嫁ぐ

嫡子3女 芳寿院は6500石旗本松平出雲守勝隆(1589~1666)に嫁ぐ

松平大隅守重則(1580~1641、上総百首1万石)も関与

嫡子4女 長正院は水野美作守勝俊(1598~1655)に嫁ぐ。のちに備後福山10万石

水野忠清(1582~1647、勝俊の伯父、三河吉田4万石)

松平豊前守勝政(水野忠分5男) も関与



## 九鬼家御家騒動その3

### 守隆の筋目の主張

主君・守隆は久隆が家督を継ぐ筋目であることを主張する

一つ、「子は親次第」である。家督を誰に譲るかは親に決定権がある。

二つ、久隆は宗心院の養子であり、天翁院にとっては養孫(やしないまご)になる

三つ、久隆を良隆の嫡子(養子)としたならば、惣領の良隆が家督を継ぐのと同じことである

守隆は糾弾する書状を送り、長男良隆を廃嫡して、久隆を良隆の猶子として家督後継者と位置付ける。



九鬼家を支える家中(家臣団)は、他の大名とは違う主君絶対の主従関係ではなく、水軍という特殊技能集団という意識が強かった。そのため、九鬼家中を出奔(走り)する者があり、家老・組頭が退去したために、総勢 65 人が 3 月 21 日に出奔した。

守隆はこうした家中の動きに「知行や扶持をもらった者が、守隆に奉公せず、隆季に従い一緒に退去するのは侍の盗賊であり、謀叛同前」だと糾弾する。

しかし、守隆はその後、それぞれの重臣の懐柔を図る作戦に出る。

水野忠清が戸田忠能に宛てた書状では、5 月 4 日に守隆に説得を試みたとある。忠清の考えは、隆季を惣領とし、將軍の意向に任せて惣領・庶子分の知行所を定めてもらうという内容であった。しかし守隆の同意を得ることが出来ず、このままでは、守隆・隆季身上も潰れはしないかと心配する。

## 九鬼家御家騒動その4

### 隆季、老中に出訴

寛永9年(1632)3月13日、隆季は幕府年寄りに父の非法を訴え出る。さらに、8月3日付けで幕府年寄りに書付を提出する。兄貞隆が亡くなり父守隆は自分を跡取りと決めたにもかかわらず、娘の宗心院の説得で久隆を跡取りにする経過を報告、隆季が正統な跡取りであると出訴する。

理由は ①久隆(寿量)の母は隆季の母の奥女中であり、身分が低い

②久隆は、将軍にお礼をあげる寺領100石の寺を継いでいる

③親族集団(水野忠清・松平勝政・本多信勝・戸田忠能・松平勝隆・水野勝俊)が隆季を「惣領をつぎ申すべき筋目」として支持している



九鬼隆季を支持する重臣たち (隆季と母(側室隆生院)が同じ兄妹の夫にあたる)

九鬼掃部吉政(700石) 庶子5女慈照院の夫 守隆が家老組頭に取立て。嫡子内蔵助

越賀隼人隆春(1800石) 庶子6女鏡智院の夫 志摩越賀の地侍系譜、九鬼兵部・図書の次席

九鬼数馬直隆(1300石) 庶子7女自光院の夫 志摩和具の地侍系譜、守隆家老として取立て

守隆は重臣に対し懐柔をはかるが、娘婿には「取立ての恩を知らない」と主君への恩を訴える九鬼守隆を支持する九鬼勘左衛門(150石)は九鬼家にとどまったのは「家のため、我々のため」であり、祖父図書より筋目を忘れず満足」と伝えている。

九鬼家中は守隆・久隆支持派と隆季支持派で、二分したのである。

## 九鬼家御家騒動その5

### 家光にお目見え

寛永9年(1632)8月23日、守隆は隆季の訴えにもかかわらず、隆季に1万石の分地を決定する。同月27日、將軍徳川家光への御目見を実現し、惣領を久隆とし、隆季を次男とした。

さらに、年寄り親族たちの肝入れで、守隆は退去した家中13人を召し返し、以後は意趣遺恨に思わないということを知った。同月29日付けで隆季宛に「分与高目録」を発給した。



徳川家光への御目見えも叶い、守隆の主張も年寄り親族衆(吉良義弥、松平重則、水野忠清、松平勝政、松平勝隆、小浜久太郎、本多信勝)等と、内証をもって決着した事で、一件落着する。

寛永9年から10年にかけては、徳川將軍家の代替わりとともに、各地でお家騒動が頻発し、政治的に大変不安定な時期となった。5月に肥後熊本の加藤氏が改易、筑前福岡で黒田騒動が起きる。10月20日家光弟忠長の高崎逼塞、寛永10年12月6日切腹。そんな中で、九鬼家の御家騒動がお家断絶にならずに済んだのは、女縁でつながる親族集団が重要な役割を果たしていたといえる。

## 九鬼家御家騒動その6

### 守隆 死す

一件落着をみた騒動が再燃する。もともと病気がちだった守隆が寛永9年9月15日に亡くなる(60才)。これを機に10月26日付で家老組頭(九鬼豊後・九鬼数馬・安楽嶋越中・九鬼内蔵助)が幕府奉行所に5か条の訴状を提出したのである。



#### 内容は

- 第一に、隆季は筋目・年頃(25才)がよく、公儀船手役の奉公を怠なく務めることが出き惣領を隆季とする誓約した起請文を守隆に提出している
  - 第二に、九鬼の家は他の家と違い、船手の軍役を務める家なり。勝手を知る家老・組頭が指図しなければ、役はつとまらない。
  - 第三に、九鬼兵部の母が寿量を2歳より養子にし、兵部親子の我儘勝手は許されない。
- と糾弾した。九鬼の水軍は主君が「親次第」で決められるものではなく、家中の相違を得る必要があると主張している。

九鬼家中は九鬼水軍という技術者集団であり、家中の協力なしでは水軍を維持できない強い自負をもつ軍団である。故に、その軍団を無視した親次第を受け入れがたく、理に適う公儀の決定を要請したのだ。

# 九鬼家御家騒動 その7

## 幕府の裁定

幕府の裁定が下される (寛永10年3月5日)

久隆に3万6千石で摂津三田(うち6千石は丹波国氷上郡)へ転封

隆季は、父の遺領2万石の分知を得て丹波綾部に移封

海から引き離された山間部に移住させ、主君を二分することで、それぞれが支持する主君のもとで、主従関係を結び直すというものであった。



特殊技能をもつ水軍は、主君の鶴の一声で事が運ばず、何事にも家臣の合意が必要だった。九鬼家騒動は、家臣の自立性を奪い、権力を主君に集中させたいと考える主君と、それを阻止せんと対立した家臣たちとの争いとも言える。

戦国期の大名の家臣団には有力武将と呼べる力量を持ち、それゆえに起きる同様の御家騒動が勃発したのだ。九鬼氏が「主君の命令は絶対」という主従意識のもとに家臣団を形成し、近世大名への転換をなしとげるには志摩国鳥羽(九鬼水軍のルーツ)を離れる必要があったとも言える。

その頃、幕府は直轄水軍の整備が整い、九鬼水軍に頼らずとも公儀役儀を果たす体制が出来上がりつつあった。寛永年間に幕府は海路も整備したのである。戦乱の世が終わり、軍事でも平時においても、九鬼水軍は水軍としての使命を終えたのである。

# 九鬼家の御家騒動年表

守隆・久隆の行動		年号	西暦
守隆の子・良隆(嫡子長男)誕生する		慶長10	1605
貞隆(嫡子次男)誕生		慶長13	1608
6月17日守隆、良隆に同道貞隆も駿府で徳川家康の初御目見えする そのあと、江戸に下り、将軍秀忠に初御目見えする		慶長17	1612
		慶長20	1615
久隆(庶子5男)鳥羽で誕生(幼名長作)		元和4	1618
良隆16歳で、従五位下・志摩守に叙任 久隆 宗心院の養子となる		元和6	1620
久隆 8才で寺(金剛証寺)の弟子になり、寿量と名乗る		寛永3	1626
寿量(久隆)、先住が没したため住寺職を継ぐ		寛永4	1627
11月貞隆 疱瘡で亡くなる。享年24歳		寛永8	1631
10月13日 守隆の妻・宗翁院が亡くなる(天応院) 宗翁院死後、守隆の嫡子長女・宗信院が江戸屋敷奥方を取り仕切る		寛永8	1631
正月上旬 江戸における親族会議で守隆が寿量を跡目にする話を提案 正月26日、寿量が下山し還俗し 28日、久隆と改め元服したのち、江戸に参府する 守隆は良隆が病者により廃嫡し、久隆を良隆の猶子として家督後継者に位置付ける 9日 親族会議、隆季が勝手に参府したこと、親族集団の申し合わせ違反を糾弾する 今後は、隆季とは親族関係を断絶、家中にも交流を断つことを命じる  守隆、重臣や家中に対し懐柔策を練る		寛永9	1632
8月23日 守隆は、隆季に1万石の分知を決定する 8月27日 良隆猶子・久隆と隆季を次男として将軍家光に御目見 8月29日 守隆は退去した家中のうち13人を召し返し、隆季に「分与高目録」発給 9月15日 守隆没 60才 久隆により摂津三田心月院に改葬			
3月5日 久隆、摂津三田3万6千石で転封 9月4日 宗心院没 60才(西照院)		寛永10	1633
3月35日良隆、摂津三田にて没する (30才)摂津三田心月院埋葬		寛永11	1634
		寛永19	1642
12月29日 久隆従五位下・大和守に叙任 12月20日 隆生院 没す		寛永20	1643
正月20日 久隆没(32才)摂津三田心月院に埋葬。隆昌3歳で遺領を賜る		慶安2	1649
江戸時代の用語		慶安4	1651
嫡子	ちやくし 父と本妻から生まれた子	寛文元年	1661
庶子	しよし 本妻以外の女性(側室)から生まれた子	寛文9年	1669
猶子	ゆうし 他人の子と親子関係を結ぶ	延宝3年	1675
嫡孫	ちやくそん 家督を継ぐ孫	延宝6年	1678
惣領	そうりょう 跡取り	延宝7年	1679

将軍	隆季・親族・重臣たちの動き
家康	
秀忠	隆季(庶子3男)誕生
	隆重(庶子4男)誕生(幼名牛之助)
家光	
	12月 家老・組頭が幕府に隆季が惣領であるとする起請文を提出する
将軍代わりで各地でお家騒動が勃	正月12日 親族会議に驚いた水野忠清が隆季に参府するよう書状送る 「長門守は御氣違」ではないか、幼少の寿量坊殿に跡を譲るとは…」
	正月20日 隆季は鳥羽から江戸に参府し戸田忠能に身を寄せる
	正月29日隆季が江戸参府したので、吉良義弥・戸田忠能・松平が守隆に報告する
	2月28日 仲介に立った家臣たちが九鬼家中を出奔する
	3月13日 隆季は幕府年寄りに非法を訴えでる
	3月21日 家老・組頭が九鬼家を退去、それに連動し総勢65人が九鬼家を出奔する
	5月初め 水野忠清が由々しき事態と異見。守隆、隆季に家督を譲ることに同意するが、 守隆、日光帰参後、にまた改心
	8月3日 老中に隆季は出訴
	8月27日 隆季次男として将軍家光に御目見
	10月26日 家老組頭5人が幕府奉行所に五か条の訴状を提出
	3月5日 父の遺領2万石の分知で、隆季綾部へ
	4月初め 隆季綾部に赴く
	九鬼隆季、従5位下式部少輔に叙任
	2月24日 久昌院(嫡子次女)没
	3月28日隆季より隆重は500石の分知を受ける
	慈照院(庶出5女) 没
	鏡智院(庶出6女) 没
	隆季没 鳥羽常安寺に葬られる 71才
	10月6日 隆重 没 浅草心月院に埋葬 65才

企画 : NPO 法人歴史文化財ネットワークさんだ

メールアドレス : [rekinet3da@kjd.biglobe.ne.jp](mailto:rekinet3da@kjd.biglobe.ne.jp)

発行: 三田ふるさと学習館

〒669-1532 三田市屋敷町 7-33

TEL/FAX 079-563-5587